

問3. 1歳6か月健診についてお尋ねします。

問3-1 どこで受けましたか。該当するものを○で囲んでください。

- a. 保健所 ()
- b. 保健所以外の医療機関
- c. 保健所以外の行政機関
- d. 受けなかった (理由)

問3-1 1歳6か月健診受診の場所

場所	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
保健所	19	61.3	81	86.2
保健所以外の医療機関	4	12.9	5	5.3
保健所以外の行政機関	3	9.7	1	1.1
受けなかった	3	9.7	1	1.1
無回答	2	6.5	8	8.5

* 東京圏では複数回答者が2名おり、1歳6か月健診受診者は85名である

《問3-1で「a 受けた」と答えた方のみ》

問3-2. 発達上の問題について、なにか指摘されましたか?

- a. 指摘された (具体的に)
- b. 指摘されなかった
- c. どちらとも言えない

問3-2 1歳6か月健診での子どもの発達上の問題の指摘の有無

指摘の有無	福岡県(N=26)		東京圏(N=85)	
	回答数	%	回答数	%
指摘された	3	11.5	29	34.1
指摘されなかった	21	80.8	46	54.1
どちらとも言えない	2	7.7	10	11.8

1歳6か月健診でHFPDD児の発達上の問題が指摘された割合には、地域差がみられた。

《問3-1で「a 受けた」と答えた方のみ》

問3-3. 発達上の問題について、精密な検査や専門医への受診などをすすめられましたか？

- a. すすめられた
- b. すすめられなかった
- c. どちらとも言えない

問3-3 1歳6か月健診時に発達上の問題で専門家への受診案内の有無

受診案内の有無	福岡県(N=26)		東京圏(N=85)	
	回答数	%	回答数	%
受診をすすめられた	2	7.7	11	12.9
受診をすすめられなかった	22	84.6	62	72.9
どちらとも言えない	1	3.8	10	11.8
無回答	1	3.8	2	2.4

《問3-1で「a 受けた」と答えた方のみ》

問3-4. 子育てについて、なにかご相談をされましたか？

- a. した
- b. しなかった
- c. わからない

問3-4 1歳6か月健診での子育てについての相談の有無

子育て相談の有無	福岡県(N=26)		東京圏(N=85)	
	回答数	%	回答数	%
相談した	8	30.8	39	45.9
相談しなかった	17	65.4	39	45.9
分からない	1	3.8	6	7.1
無回答	0	0.0	1	1.2

子育て相談をした保護者の割合にも地域差がみられた。

《問 3-1 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 3-5-1. 子育てについて、アドバイスを受けてましたか？

- a. 受けた
- b. 受けなかった
- c. どちらとも言えない

問3-5-1 1歳6か月健診での子育てについてのアドバイスの有無

アドバイスの有無	福岡県(N=26)		東京圏(N=85)	
	回答数	%	回答数	%
アドバイスを受けた	7	26.9	28	32.9
アドバイスを受けなかった	16	61.5	40	47.1
どちらとも言えない	2	7.7	16	18.8
無回答	1	3.8	1	1.2

《問 3-3 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 3-5-2. そのアドバイスは助けになりましたか？

- a. 助けになった
- b. 助けにならなかった
- c. どちらとも言えない

問3-5-2 1歳6か月健診での子育てのアドバイスの役立ち度

助けになったかどうか	福岡県(N=7)		東京圏(N=28)	
	回答数	%	回答数	%
助けになった	1	14.3	12	42.9
助けにならなかった	2	28.6	7	25.0
どちらとも言えない	4	57.1	8	28.6
無回答	0	0.0	1	3.6

1歳6か月健診での指摘、相談に関する割合の地域差は、そのまま保護者への満足度の差に反映されている。

問 3-5-3. アドバイスを聞いて精神的に傷ついたり不愉快な思いをしましたか？

- a. そのようなことがあった（具体的に ）
- b. そのようなことはなかった
- c. どちらとも言えない

問3-5-3 そのアドバイスによる傷つきや不愉快な思いの有無

傷つきや不愉快な思い	福岡県(N=7)		東京圏(N=28)	
	回答数	%	回答数	%
そのようなことがあった	4	57.1	4	14.3
そのようなことはなかった	3	42.9	20	71.4
どちらとも言えない	0	0.0	4	14.3

適切な介入の割合の差は、また不適切な介入とも一致することがわかる。

問 4. 3歳健診についてお尋ねします。

問 4-1 どこで受けましたか。該当するものを○で囲んでください。

- a. 保健所 ()
- b. 保健所以外の医療機関
- c. 保健所以外の行政機関
- d. 受けなかった (理由)

問4-1 3歳健診受診の場所

場所	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
保健所	21	67.7	81	86.2
保健所以外の医療機関	3	9.7	6	6.4
保健所以外の行政機関	3	9.7	1	1.1
受けなかった	2	6.5	1	1.1
無回答	2	6.5	6	6.4

* 東京圏では複数回答者が1名おり、3歳健診受診者は87名である

《問 4-1 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 4-2. 発達上の問題について、なにか指摘されましたか？

- a. 指摘された (具体的に)
- b. 指摘されなかった
- c. どちらとも言えない

問4-2 3歳健診での子どもの発達上の問題の指摘の有無

指摘の有無	福岡県(N=27)		東京圏(N=87)	
	回答数	%	回答数	%
指摘された	10	37.0	31	35.6
指摘されなかった	15	55.6	44	50.6
どちらとも言えない	2	7.4	9	10.3
無回答	0	0.0	3	3.4

3歳健診でもなお、約半数の回答者は HFPDD の存在を見逃されている。

《問 4-1 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 4-3. 発達上の問題について、精密な検査や専門医への受診などをすすめられましたか？

- a. すすめられた
- b. すすめられなかった
- c. どちらとも言えない

問4-3 3歳健診時に発達上の問題で専門家への受診案内の有無

受診案内の有無	福岡県(N=27)		東京圏(N=87)	
	回答数	%	回答数	%
受診をすすめられた	8	29.6	23	26.4
受診をすすめられなかった	17	63.0	51	58.6
どちらとも言えない	2	7.4	8	9.2
無回答	0	0.0	5	5.7

3歳健診で指摘があっても、なお大部分で受診に積極的につながない。

《問 4-1 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 4-4. 子育てについて、なにかご相談をされましたか？

- a. した
- b. しなかった
- c. わからない

問4-4 3歳健診での子育てについての相談の有無

子育て相談の有無	福岡県(N=27)		東京圏(N=87)	
	回答数	%	回答数	%
相談した	18	66.7	39	44.8
相談しなかった	8	29.6	41	47.1
分からない	1	3.7	2	2.3
無回答	0	0.0	5	5.7

《問 4-1 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 4-5-1. 子育てについて、アドバイスを受けましたか？

- a. 受けた
- b. 受けなかった
- c. どちらとも言えない

問4-5-1 3歳健診での子育てについてのアドバイスの有無

アドバイスの有無	福岡県(N=27)		東京圏(N=87)	
	回答数	%	回答数	%
アドバイスを受けた	11	40.7	34	39.1
アドバイスを受けなかった	14	51.9	43	49.4
どちらとも言えない	1	3.7	4	4.6
無回答	1	3.7	6	6.9

《問 4-4 で「a 受けた」と答えた方のみ》

問 4-5-2. そのアドバイスは助けになりましたか?

- a. 助けになった
- b. 助けにならなかった
- c. どちらとも言えない

問4-5-2 3歳健診での子育てのアドバイスの役立ち度

助けになったかどうか	福岡県(N=11)		東京圏(N=34)	
	回答数	%	回答数	%
助けになった	5	45.5	13	38.2
助けにならなかった	1	9.1	7	20.6
どちらとも言えない	5	45.5	12	35.3
無回答	0	0.0	2	5.9

問 4-5-3. アドバイスを聞いて精神的に傷ついたり不愉快な思いをしましたか?

- a. そのようなことがあった（具体的に ）
- b. そのようなことはなかった
- c. どちらとも言えない

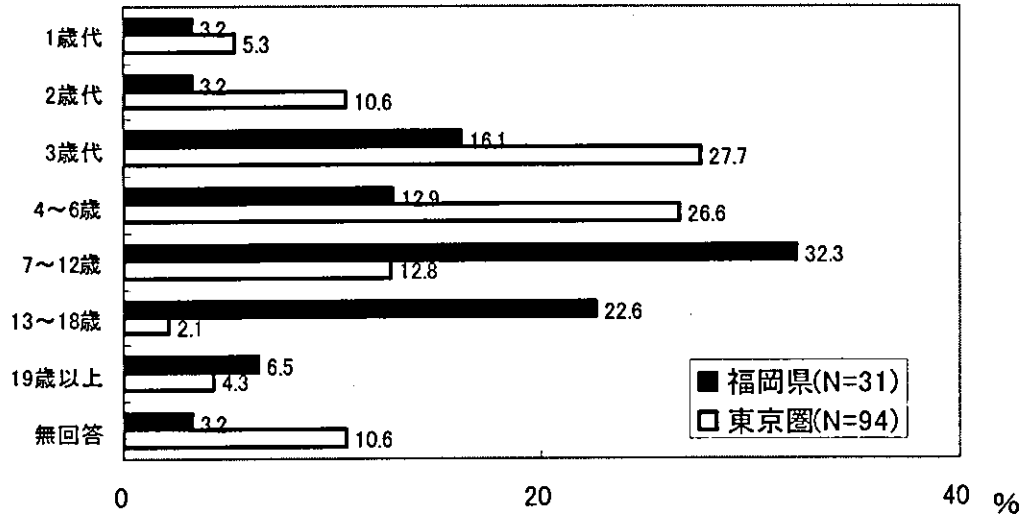
問4-5-3 そのアドバイスによる傷つきや不愉快な思いの有無

傷つきや不愉快な思い	福岡県(N=11)		東京圏(N=34)	
	回答数	%	回答数	%
そのようなことがあった	1	9.1	10	29.4
そのようなことはなかった	8	72.7	14	41.2
どちらとも言えない	2	18.2	7	20.6
無回答	0	0.0	3	8.8

問5 最初に診断を受けられた時のことについてお尋ねします。

問5-1. それはいつでしたか。 ()歳 ()ヶ月

問5-1 診断を受けたときの子どもの年齢

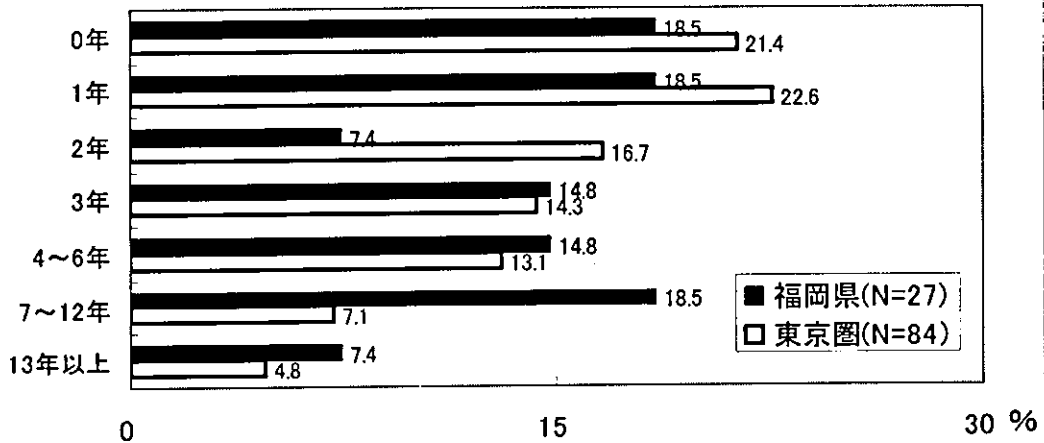


最初に診断を受けたときの子どもの平均年齢

福岡県(N=30)	東京圏(N=84)
9.9歳(1-46)	5.8歳(1-38)

福岡県では子どもが診断を受けた年齢は7~12歳の学童期がピークであった。
東京圏ではピーク年齢は3歳代、4~6歳であり、就学前であった。

なにかちがうと感じてから診断までのタイムラグ



問 5-2 診断名は何でしたか？

(複数回答 可)

- a. 自閉症・自閉性障害
- b. 高機能自閉症・高機能自閉性障害
- c. アスペルガー症候群・アスペルガー性障害
- d. 広汎性発達障害(PDD)
- e. 特定不能の広汎性発達障害
- f. 非定型自閉症
- g. 自閉傾向
- h. AD/HD(注意欠陥/多動性障害、多動性障害)
- i. 多動傾向
- j. 学習障害(LD)
- k. 知的障害・精神遅滞
- l. 言語発達遅滞
- m. その他()

問5-2 診断名

診断名	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
自閉症・自閉性障害	1	3.2	22	23.4
高機能自閉症・高機能自閉性障害	2	6.5	12	12.8
アスペルガー症候群・アスペルガー性障害	11	35.5	19	20.2
広汎性発達障害(PDD)	2	6.5	19	20.2
特定不能の広汎性発達障害	1	3.2	2	2.1
非定型自閉症	0	0.0	1	1.1
自閉傾向	4	12.9	15	16.0
AD/HD(注意欠陥/多動性障害、多動性障害)	1	3.2	7	7.4
多動傾向	1	3.2	2	2.1
学習障害(LD)	2	6.5	1	1.1
知的障害:精神遅滞	2	6.5	8	8.5
言語発達遅滞	0	0.0	2	2.1
その他(情緒障害)	1	3.2	5	5.3
未診断	1	3.2	0	0.0
無回答	2	6.5	5	5.3

問 5-3. それはどこでしたか？(差し支えなければカッコ内に具体名を記入して下さい)

- a. 保健所 ()
- b. 療育センター ()
- c. 医療機関 小児科 ()
- d. 医療機関 精神科 ()
- e. その他 ()

問5-3 診断場所

場所	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
保健所	3	9.7	7	7.4
療育センター	5	16.1	28	29.8
医療機関 小児科	5	16.1	16	17.0
医療機関 精神科	12	38.7	27	28.7
その他	6	19.4	10	10.6
無回答	0	0.0	10	10.6

福岡県では医療機関(精神科)が発達障害の診断に果たす役割が最も多い。
東京圏県では療育センターが医療機関(精神科)と同様に機能している。

問 5-4. 診断を聞いたときに、あなたはどのように思いましたか。具体的にお答えください。

()

問5-4 診断を受けたときの気持ち(自由記述)

場所	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
診断が確定したことへの納得・安心	8	25.8	13	13.8
診断を受けたことに対するショックな気持ち	8	25.8	18	19.1
診断の理解できなさからくる疑問	2	6.5	4	4.3
もっと早く分かっていたらという思い	3	9.7	1	1.1
将来への不安	4	12.9	3	3.2
子育ての自責・他者からの非難からの解放	2	6.5	1	1.1
別の障害だと思っていたことからくる驚き	1	3.2	1	1.1
確定診断されないことへの困惑	1	3.2	2	2.1
短時間の診察での診断告知への驚き	1	3.2	1	1.1
子育て観転換に伴う困惑	2	6.5	1	1.1
専門家に受け入れてもらえていないという不安	1	3.2	1	1.1
専門家の対応による安心	1	3.2	0	0.0

問 5-5. 診断を告げられたときの医師の説明は十分でしたか？

- a. 十分にわかりやすく説明してもらった
- b. 不十分でわからないことが多かった
- c. どちらとも言えない

問5-5 診断時の説明

説明について	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
十分わかりやすい説明	10	32.3	34	36.2
不十分でわからないことが多い	8	25.8	21	22.3
どちらとも言えない	10	32.3	26	27.7
無回答	3	9.7	14	14.9

問 5-6. 診断を告げられたときの医師を含む専門家の態度はどうでしたか？

- a. 親身であった
- b. 冷たかった
- c. どちらとも言えない

問5-6 診断時の専門家の態度

専門家の態度	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
親身であった	14	45.2	41	43.6
冷たかった	0	0.0	10	10.6
どちらとも言えない	15	48.4	36	38.3
無回答	2	6.5	8	8.5

問 5-5. 診断を聞かれたときに、励ましになったり、希望が持てたりしたことはどんなこと
 でしたか。あれば、具体的にお答えください。

()

問5-7 診断時に励ましになったり希望が持てたりしたこと(自由記述)

励ましになったり希望が持てたりしたこと	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
専門相談機関(医療機関含む)の紹介	2	6.5	1	1.1
専門家の支援	2	6.5	8	8.5
日常生活への具体的なアドバイス	2	6.5	0	0.0
障害が明確化したこと	0	0.0	2	2.1
具体的な療育方法の紹介	1	3.2	0	0.0
子どもの能力や長所を生かした将来への可能性の示唆	5	16.1	8	8.5
子どもの成長の可能性の示唆	1	3.2	7	7.4
子どもの存在	0	0.0	1	1.1
自分へのねぎらい	0	0.0	1	1.1
周囲の人の支え	0	0.0	1	1.1
発達障害児・者の親との出会い	1	3.2	0	0.0

子どもの能力や長所を生かした将来の可能性について保護者に説明することが、保護者に
 寄り添う態度として求められていることがわかる。

問 5-8. 診断を受ける際に専門家が配慮すべき点についてご意見があれば、ご自由に記入してください。

()

問5-8 診断を行う際に専門家が配慮すべき点(自由記述)

専門家が配慮すべき点	福岡県(N=31)		東京圏(N=94)	
	回答数	%	回答数	%
明確な診断	2	6.5	3	3.2
診断告知のタイミング	1	3.2	1	1.1
診断についての分かりやすい説明	2	6.5	7	7.4
本人の状態・特性についての分かりやすい説明	2	6.5	4	4.3
将来像・将来展望についての示唆	2	6.5	3	3.2
日常生活での具体的な対応についてのアドバイス	7	22.6	9	9.6
専門相談機関(医療機関含む)の紹介	5	16.1	1	1.1
学校との連携	0	0.0	1	1.1
親の会の紹介	2	6.5	1	1.1
親に寄り添う態度	9	29.0	3	3.2
医師の配慮ある発言	0	0.0	1	1.1
親のカウンセリング	2	6.5	1	1.1
夫婦のコミュニケーションに関する問題への配慮	1	3.2	0	0.0

Ⅲ.今後の課題

今回の調査においては、小児科医は福岡県でのみ調べており、保健師は福岡県と東京圏とで調べている。保健師は2地域からのサンプリングとなったが、リクルートの方法が異なるので、東京圏の結果は地域の特徴を代表しているかどうか明らかではない。一方、福岡県保健師は回収率が66.7%とこの種の調査としてはきわめて高く、関心の高さがうかがえた。福岡県と東京圏の保護者については、サンプリングにバイアスがかかっている可能性は否めない。児の年齢は、地域内でも地域間でもばらつきがあるので、どの時期の乳幼児健診サービスを反映した回答かは特定できない。したがって、単純に比較して結論づけることは慎重となるのがよいと思われる。それでも、福岡県は福岡市という大都市を抱えているにもかかわらず、児童精神科医が勤務する療育や相談の専門機関が少なく、郡部にいたってはきわめてリソースが乏しいのも事実である。このことが保護者対象のアンケート結果に顕著に反映されていたと解釈する必要もあろう。福岡県の今後の課題は、乳幼児期の社会的発達についての認識を高め、HFPDDの早期発見と支援に必要な技能の向上が急がれる。概して、乳幼児健診におけるHFPDDに対する支援はこれからと言えよう。そのための実証的臨床データと、ハード面ソフト面の充実、スタッフの認識の変革などが強く求められていることが示された。

謝辞

調査にご協力いただきました皆様に深謝申し上げます。福岡県小児科医会の先生方、保健師の皆様方には年末のお忙しい時期にもかかわらずいねいなご回答をいただきました。福岡県の保健師の皆様にはとりわけご多忙な合間に驚異的な回収率でご回答をいただきました。また保護者の皆様には、昔のことを思い出していただきながら単刀直入な質問にも率直なご回答を頂き、感謝いたします。

データ入力にはご協力いただいた九州大学人間環境学研究院の山本幸子さんに感謝いたします。